

令和5年度伊賀市文化振興プランにかかる意見交換会概要

令和5年7月28日
伊賀市文化会館

意見交換会

テーマ 「子どもや若者たちと文化芸術をつなぐために」

グループテーマ

- A 「観光・産業との連携による文化芸術の全国発信」
- B 「次世代へと繋ぐ担い手や後継者の育成」
- C 「子どもたちが文化芸術を体感できる機会の充実」
- D 「文化芸術を通じた多様性を認め合う社会の実現」
- E 「歴史と風土が育んだ文化芸術の継承及び新たな文化芸術の創造」

【Aグループ】

- ・各種団体による日頃の活動が、なかなか子どもや若者につながらない。イベント等も散発的で、横のつながりができていないのが現状。何らかの行事を通じて他分野と連携すれば、これまで関わりのなかった団体等が横につながれる。
- ・子どもと企業や商工会議所が連携できないか。例えば、社会見学をした子どもが絵を描き、その絵を使って企業が自社の業務をPRする、といった連携ができないか。
- ・絵画等の指導者が不足しているが、OBは呼ばれば活動する。廃校舎を「絵画教室」として使えば、ボランティアで指導する機会が作れるのではないか。
- ・文化が無いとまちづくりはできない。しかし、素材がありながら活かしきれていない。
- ・現代の子どもは、例えば絵を描く時、身の回りのモノ（タブレット等）を使うことで自己完結している。組織や団体に属さない傾向がある。しかし、色んなイベントを興すことで、子どもたちの参加の機会を増やせるのではないか。
- ・子どもたちの視点を生かすには、学校現場との連携が必要。

【Bグループ】

- ・少子化の影響で文化芸術団体の会員数が減少し、従前の定期的な活動（公演や発表会等）ができない。
- ・小学校や寺院で地域に根差したクイズを出題し、子どもに参加してもらっている。その場に色んな団体が連携して、何らかのイベントができないか。
- ・子どもが参加できる演劇を企画している。
- ・会員減による予算不足で講師料等が賄えない現状があり、学校等への指導が困難になって

いる。

- ・子どもたちが本物の芸術に触れたり五感で感じたりする機会が少ない中、学校ぐるみで取り組みが進められないか。
- ・子どもと意見交換し、ニーズを把握したい。
- ・他団体や公（行政）に呼び掛けて、横につながり活動を継続させることが重要。

【Cグループ】

- ・参加型イベントの企画に対して定員をオーバーするケースが多くあり、受け皿を広げる必要がある。
- ・文化芸術に触れる機会の確保については、会場までの移動手段や金銭的な問題もある。
- ・周知にはSNSを活用し、より広く保護者に伝える取り組みが必要。
- ・アプリを見ると、伊賀のイベントが一覧で見られるようにできないか。
- ・獅子舞などの地域の伝統文化を理解することで、地域への愛着が生まれる。
- ・所蔵品がたくさんあるので、学校の授業で活用してほしい。
- ・学校に通えない子どもたちも体験できる機会を作してほしい。文化や芸術に触れてやりたいことを見つけ、生きる力につなげてほしい。
- ・伊賀市で、「伊賀の街を描こう」を年2～3回開催してはどうか。
- ・地元作家の発表の場がない。美術博物館に「市民ギャラリー」を作ったらどうか。
- ・「文化巡り」の一日を設定し、行政（無料）バスで巡ることはできないか。

【Dグループ】

- ・「誰ひとり取り残さない」が現代社会のキーワードだが、立場の異なる者のそれぞれが領域を超えて何を協働するか。
- ・自分の芸術を発表する場（ステージ）が限定的で公演活動に広がりがなくなれば、その芸術に触れることで日常にない感動や変化が期待される場所に出向く（アウトリーチ）ことによって、両者の思いが達成できるのでは。
- ・自分が取り組んできた作品を社会に役立たせたい＝パブリックスペース、あるいは学校、企業など、作品の「受け皿」を模索できないか。
- ・多様なジャンルの者が集まり、テーマを絞りながら可能な取り組みについて話し合う「プラットフォーム」を作り、合議体として実績を積み重ねたい。
- ・生きがいを持つためには、文化芸術が必要になる。（経済的理由等で）参加したくてもできない市民には、行政の力が必要。文化芸術に触れる機会を（できる限り均等に）提供するためには、その前提を踏まえねばならないし、それは福祉にも返ってくる。
- ・子どもは、集まれば何かができるもの。その状況を知り、何が生まれるかを考えることが必要。

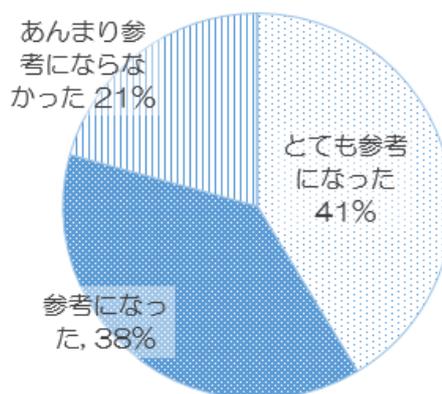
【Eグループ】

- ・歴史文化を地域の子どもたちに知ってもらう機会を与えることが大事。SNS等によって情報量が多い中、必要な情報が子どもたちに行き届くような手法を皆で知恵を出して考えることが重要。
- ・市民展覧会などの作品展に出展する若年層が、社会に出てからも引き続き展覧会に出展できることを知ってもらうような環境づくりを考える必要がある。
- ・体験することが大事。モノづくりの現場で作業を見て体感することが、発見や気づきにつながり、それぞれの文化の力になる。
- ・自分だけの活動で担えない部分を行政に一部関わってもらい、効果的な支援を得ることで地域の文化力やまちづくりに効果的につなげることも必要。
- ・夏休みに、創作体験をするチャンス子どもたちに与えられないか。例えば、自治会が教室を開講するなどして、3～5人のグループで何かひとつのモノを作る体験ができないか。
- ・放課後児童クラブや子ども食堂を舞台に、文化芸術を知る機会がつかれないか。
- ・時代が変わり、どの分野においても一部に負担が行くことになるのではないかと思う。そこをどう補い合うのか。

令和5年度伊賀市文化振興プランにかかる意見交換会アンケート集計

Q 本日の意見交換会はあなたにとって参考になりましたか。

とても参考になった	12
参考になった	11
あんまり参考にならなかった	6
全然参考にならなかった	0
無回答	0

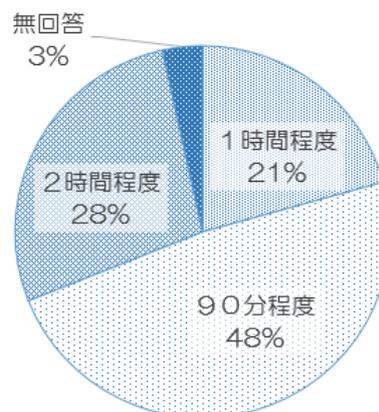


Q 上記を選んだ理由（抜粋）

- ・ いろんな方々と話げできたことがとても参考になった。現状の問題点と共通したことが多く参考になった。
- ・ これまで自分の活動するジャンルでの交流しかなかったが、他ジャンルの方々、業種の違う方々とのお話し合いができ、視野が広がった。
- ・ 文化・芸術とは違う分野からの参加であったので、課題解決のすべ等について考える意見もあり、参考になりました。
- ・ 今後の取り組み等への要望が主だったので、あまり参考にならなかった。
- ・ 自分たちの団体だけでは解決できない問題をのべることが出来て良かった。
- ・ グループ別対議もあり、グループごとの発表も聞けて、考えを言う・聞いて情報を知る機会になりました。
- ・ 真剣に今困っている現状を聴くことが出来た。実際にこどもや若者の意見を聴くことが大切。情報共有。
- ・ テーマから外れている意見交換会のように感じた。
- ・ 自身にとって資源を増やす機会となった。個人的には「各々でつながることも大事だが、大きなまとまりとして一定の定義の中で文化交流をする」という仕組みの大切さが見えた。

Q 会議の内容を深めるため、あなたが必要と思う所要時間は。

1時間程度	6
90分程度	14
2時間程度	8
無回答	1



Q 次回以降に取り上げてほしいテーマ（抜粋）

- ・ 社会に対して共通の考えを共感できることについて。協力できる案件について。
- ・ 地域・福祉と文化芸術は分けてみるのではなく、中にあるものであるという概念をもって話をしたい。
- ・ 実現したい（やってみたい）イベントを考えるワーク等をしてみてはどうか。横につながりを広げるため。
- ・ テーマをもう少し絞って良いと思う。
- ・ 文化振興を支える場なので、伊賀市が事業を行う新図書館や新美術館博物館に対して市民の意見交換を行う場として、機能するとよいのではないか。
- ・ 子ども、若い世代を巻き込んだテーマ。「何を必要としているか」
- ・ 伊賀に「文化」を根付けるには、どんな仕掛けが必要か？理由として、ネタがあっても活かせていないのでは？と思うから。
- ・ 情報発信

Q その他、ご意見があればお書きください。（抜粋）

- ・ 「アウトリーチ」が苦手な分野の助けになるきっかけがあればいいですね。やってみたい。
- ・ 今日の分科会では、色々な意見がでて大変良かったと思う。しかし、意見だけに終わらず大変だけど是非実行いただきたいと思います。伊賀市の美術館も是非作ってほしいです。
- ・ とにかく、環境づくりを整えていかないといけないと思う。
- ・ 色々な課題を少しでも他団体の方と協力しながら助け合いながらクリアしていけたらと思う。
- ・ 学校で取り組んでいる活動を知りたい。
- ・ 1つの目的に対して集まる場所（プラットフォーム）の構築により人と人とのつながりが生まれる可能性に期待したい。